◆検 査 室

室　長　中島晴伸

【1.体制】

2022年度は8人体制での運用となった。継続して検査室内でのローテーションを行い、全体でのカバーリング体制を継続し、有給休暇等取得や病欠者発生時などのフォローも行えた。

【2.取組内容と実績】

（1）外来採血業務のへの参入は継続しており、基本週1日だが、外来繁忙時には可能な限りフォローに入っている。

出前健康講座はコロナ禍の影響により、検査室からの講座は開催されなかった。また、新人看護師を中心としたミニレクチャーも、1回限りの開催となった。次年度には再開したい。

多項目自動血球分析装置と、全自動血液凝固測定装置を、新型機種に更新した事により、測定時間の短縮や試薬管理の簡素化、体液検体や微量検体への対応など、業務改善へ繋がった。

2022年度もCOVID-19のクラスターが発生し、大量のLAMP検査を行う必要が有り、休日返上での対応も成ったが、技師および現場看護師の協力の下、無事に検査を実施する事ができた。

検体検査の件数は、前年度と著変無かった（COVID-19検査件数増加継続のため）。

（2）心エコーおよび腹部エコーは4名体制となった。さらに他の領域も充実した体制を構築していく必要がある（特に血管エコーへの対応が急務）。

熊本病院の予防医療センターに合わせ、腹部超音波の判定表を改訂した。生理検査の件数は前年度に対し、生理検査全体で1,000件以上激減した。

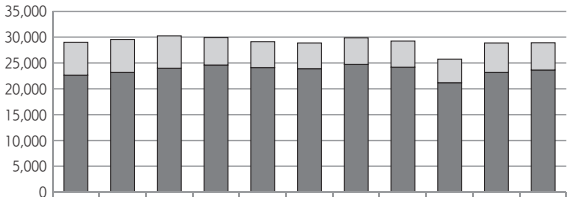
男性技師1名が2カ月弱の育休を取得したが、カバーリンク体制の充実により、業務に大きな影響が出る事は無かった。

【3.今後の課題】

（1）役職者への登用が急務であるが、ここ数年進展していない。

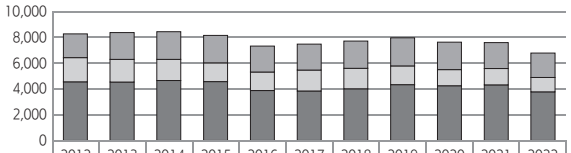
（2）超音波診断装置（探触子含む）や血圧脈波検査装置が、購入後10年以上経過しており、何時故障してもおかしくない状況であり、新機種の購入を希望する。

採血患者数年度別推移



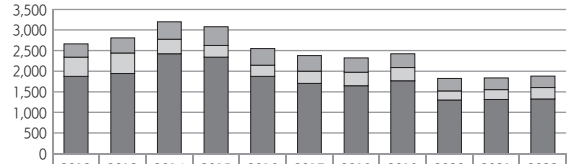
	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
入院採血患者数	6,326	6,377	6,257	5,305	5,002	4,985	5,124	5,045	4,559	5,711	5,258
外来採血患者数	22,619	23,141	23,940	24,578	24,067	23,866	24,699	24,170	21,155	23,142	23,614

主な生理検査年度別推移



	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
腹部エコー	1,843	2,091	2,156	2,127	2,016	2,022	2,123	2,197	2,146	2,026	1,895
心エコー	1,889	1,770	1,655	1,467	1,454	1,631	1,601	1,456	1,261	1,268	1,123
心電図	4,570	4,549	4,672	4,589	3,881	3,856	4,028	4,346	4,260	4,333	3,793

病理・細菌検査年度別推移



	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
病理細胞診	321	368	422	456	405	377	346	332	300	288	277
病理組織診	462	497	352	284	271	298	329	320	222	238	283
一般細菌培養検査	1,878	1,945	2,427	2,341	1,876	1,702	1,646	1,769	1,302	1,313	1,323